

市民の安全と生活を 守る

◆市の人口74人増加

問 昨年、県内19市で塩尻市だけが人口増となったが、人口増につながった要因は。

答 子育て世代の転入者の増加と、新生児が一昨年より64人増えたことによる。

◆松くい虫対策は

問 昨年、市内40数カ所被害が確認され、今年はさらに拡大されることが想定される。食い止めるには早期発見し、処理することが必要だが山の所有者がわからない場合の対応はどうするのか。

答 所有者の了解を得て処理することが基本だが、やむを得ない場合には処理し、事後承諾をいただく。

◆子どもの交通安全確保を

問 洗馬小学校周辺ゾーン30の指定を知らない住民が多いがどのように周知したか。

答 警察からのチラシを地区内へ回覧した。

問 小さな標識だけではわかりにくいので、路面標示が必要ではないか。



洗馬小学校周辺 9カ所へ路面標示

◆9カ所へ路面標示したい。

◆依存症対策の強化を

問 市、県の相談体制はどうなっているか。

答 本市では健康づくり課が相談窓口となり、保健師が相談にのっている。また、月一回精神科医師による「こころの健康相談」を実施している。県では、松本保健福祉事務所が相談窓口となっている。

◆市臨時職員の待遇改善を

問 官制ワーキングプアになっていると指摘されている賃金や手当の改善の考えは。

答 近隣市町村の動向を見ながら検討していく。



古畑 秀夫
(市民派連合)

子どもの貧困対策が 急がれる

◆子どもの貧困について

問 子どもの貧困が社会問題になっている。就学援助費の本市の現状はどうか。

答 生活保護世帯又はそれに準ずる経済状況にある世帯の小中学生に学用品費や給食費を補助する就学援助費の支給比率は平成26年度全小中学生の11.5%、総額で4千67万円にのぼる。25年度に並び過去最大となっており、対策が急がれる。民間事業所による子ども食堂の取り組みにも行政として研究していく。

◆すがのの郷はどうなるか

問 老人福祉センターすがのの郷は平成30年度で廃止し「ふれあいセンター洗馬」へ機能を移す方針とのことだが、2025年問題をひかえ、廃止方針には無理があるのでは。「洗馬」の受け入れ体制は大丈夫か。

答 すがのの郷の利用年間実績は延べ7千400人余。「ふれあいセンター広丘」へ「洗馬」から8千600人余移ったの

で十分可能だ。

◆果樹生産者へ補助金は

問 昨年の果樹生産は秋の長雨、病害虫に悩まされた。生産者の高齢化や苗木不足、加工用ぶどうの安値等もあり農家は将来が見通せない。補助制度や担い手対策はどうか。

答 平成28年度は生産活動資金の利子補給や果樹共済掛金の1/2補助など長雨対策を実施した。29年度にはぶどう雨よけ設備導入補助など新たな助成対策を実施する。また今後さらに収穫ボランティアの充実等農作業省力化対策も含め、支援対策を図っていく。



老人福祉センターすがのの郷



中原 巳年男
(市政同志会2015)